

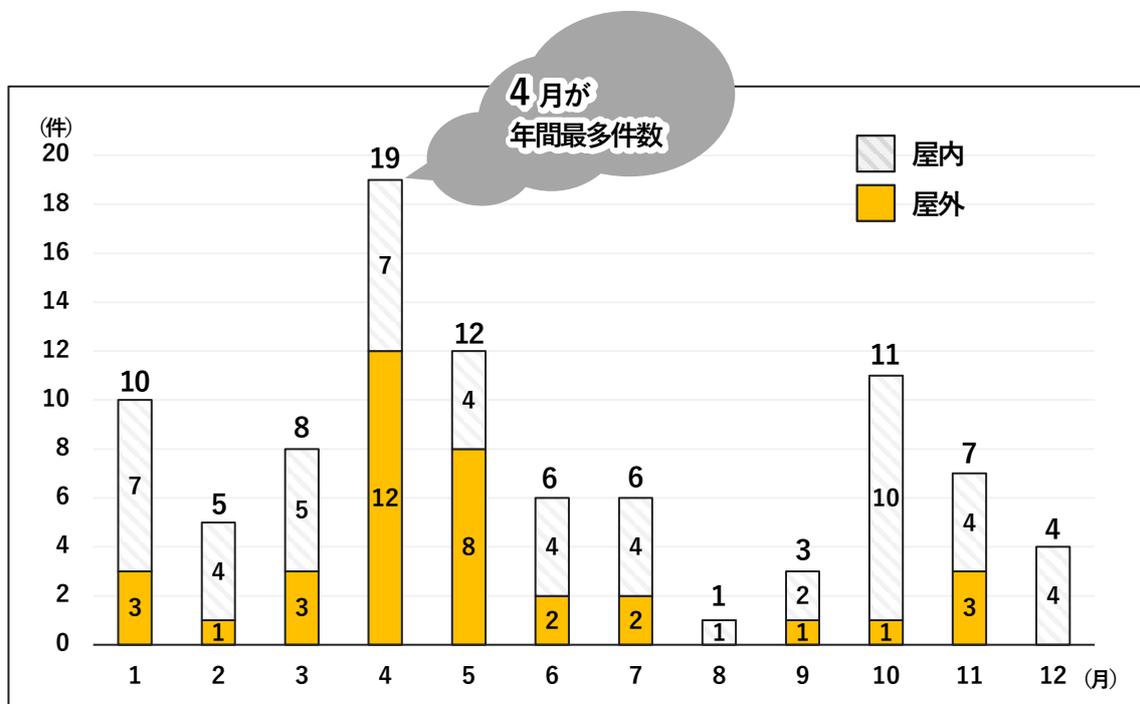
4月が要注意！

【たばこが原因の火災統計について】

郡山地方広域消防組合管内では過去10年間（2014年から2023年）でたばこが原因の火災が92件発生しました。たばこが原因の火災は管内でも毎年発生しており、加熱式たばこの普及などにより喫煙が多様化し、改めて喫煙方法やエチケットが問われています。

つきましては、類似火災の予防を図るため、以下のとおり統計資料をまとめましたのでお知らせします。

1 月別火災件数



屋内：居室や倉庫など（車内を含む）
屋外：河川敷や山林、建物外周部など

過去10年間のたばこが原因の火災を月別で見ると、4月19件（20.7%）が最多で、5月12件（13.0%）、10月11件（12.0%）と続きます。

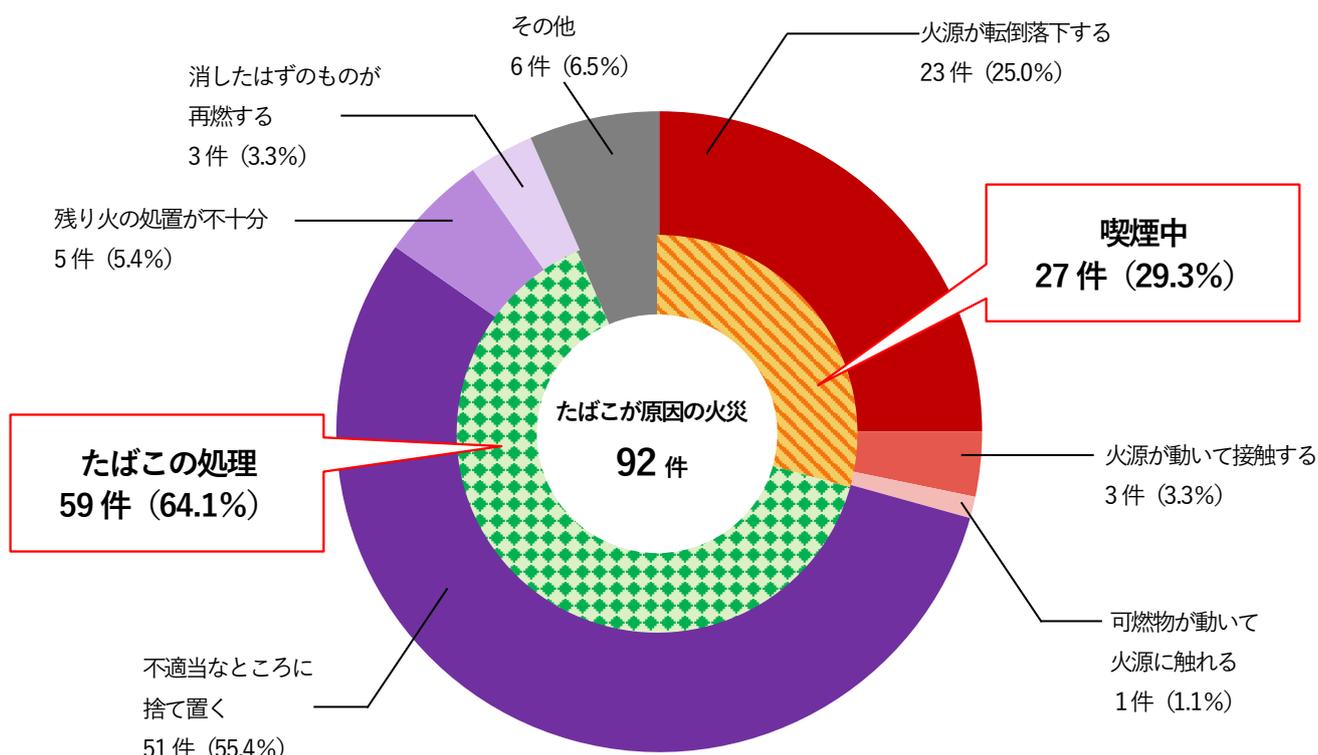
出火箇所を屋内と屋外に分類し、月ごとに出火件数をみると、屋内での発生は10月が最多の10件であるのに対し、屋外での発生は4月が最多の12件となっています。

4月は屋内での火災件数も7件と、同分類では2番目に多い件数のため、特に注意が必要な月であることがわかります。

2 出火に至る経過

経過を集計すると「火源が転倒落下する」や「火源が動いて接触する」など喫煙中にたばこの火を見逃し発生した火災が27件(29.3%)であるのに対し、「不適当なところに捨てる」など吸い終わった後のたばこの処理が不適切で火災に至ったものが59件(64.1%)と約6割を占めています。

このことから、たばこは灰皿に捨てるだけでなく、確実に水につけて処分するなど処分方法にも注意を払うことが火災予防につながると考えられます。



4 火災予防のポイント

- ◆ 喫煙後は必ず灰皿へ
- ◆ 吸い殻は灰皿に溜めない
- ◆ 吸い殻は水につけて処分する
- ◆ 灰皿にはプラスチック容器などを使用しない

Youtube 燃焼実験動画

たばこの吸い殻をゴミ箱に捨てる...

